

妊娠中の皆様へ

いわき地域支援チーム

新型コロナウイルス感染症対策に伴うマスク寄贈趣意書

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、新型コロナウイルス感染拡大を受け、市内の医療機関をはじめとする関係機関はもちろんのこと、妊婦の皆様にも十分にマスクが行き渡っていないとお話を伺いました。妊婦の皆様はもちろんのこと、これから生まれてくる子供たちの為、妊娠中の皆様が感染の不安や危険に晒されることがあってはならないと、私達いわき地域支援チームは思っております。

新型コロナウイルス感染症の長期化が予想される中、妊娠中の皆様が少しでも安心・安全な環境で出産を迎える一助となるよう地元の民間企業にできる支援をさせて頂きたく、“共にふるさとの未来を担う皆様の支援したい”という想いで、国内のマスクメーカー複数社に書面にていわき市の状況を説明させて頂きましたところ、唯一、大王製紙様より『超極細フィルター不織布マスク』を提供頂き、妊婦の皆様へ寄贈できる運びとなりました。

地域を支えることが地元への恩返しになると考え、ふるさとを守り、皆様が新型コロナウイルスに感染することなく、安心・安全に出産を迎えられるよう、微力ながら支援させて頂ければと思います。

また、新型コロナウイルスの感染拡大が広がる中、医療関係者やそのご家族、新型コロナウイルス感染者の方への言われなき誹謗中傷・差別も深刻となってきましたが、コロナ差別は絶対にあってはならないことです。医療機関で働く全ての方に感謝と敬意を表しエールを送るべく、5月1日に『市民の命を守るために闘う医療関係の皆様へ感謝いたします』と書かれた横断幕をいわき市2箇所を設置するという活動をさせて頂きました。福島県第一原子力発電所の事故が発生し、放射能差別を受けた経験があるからこそ、多くの市民がこの横断幕を目にすることで、医療従事者や新型コロナウイルスに感染した方への差別や偏見がなくなることを願うとともに、市民の皆様がコロナ差別について考えるきっかけになれば幸いです。

この寄贈を通し、日本中で支援の輪が広がり、差別や偏見ではなく国民全員が“誰かを想い、誰かのために”活動できる国になることを願ってやみません。

敬具

記

□マスク寄贈の記者会見の様子



〈協賛企業名〉

常磐共同ガス株式会社、ひまわり信用金庫、ぐるっと株式会社、株式会社レック、東洋システム株式会社

URL : <https://www.gurutto-iwaki.com/detail/2167/index.html>

□横断幕



以上

【マスク寄贈の経緯について】

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、妊娠中の皆様は日々不安な毎日をお過ごしのことと存じます。

さて今回新型コロナウイルス感染症が拡大している影響によりマスクが日本中で不足しており、特に健康管理に注意が必要な妊婦の皆様にも十分にマスクが行き渡っていないとの話をお伺いし、地元企業として何か協力できることはないかと検討し、今回地元企業5社共同でマスク寄贈を行う運びとなりました。

東洋システムでは昨年秋の台風19号による水害時に社員用備蓄マスク30,000枚を被災された住民の方々に配布させて頂きました。その補充用として1月にマスクの調達を進めておりました。しかし、2月にクルーズ船での新型コロナウイルスの集団感染が発生すると取引先から医療関係にマスクを優先的に納品するため、1月に受けた受注はキャンセルさせて頂きたいとの連絡が複数入り、これは大変なことが起きていると危機感を強め、2月6日付で社内に緊急事態宣言を発令し、警戒を強めました。その後も弊社の中国駐在員を通じてマスクの輸入を試みてきましたが、うまくいかない日々が続き、3月に入り日本でも新型コロナウイルスの感染者が次第に増えはじめ、世界的に新型コロナウイルスが大流行するとマスクの入手はますます困難となりました。

その頃から医療機関でもマスク不足が顕著となり、特に高性能医療用マスクN95マスク等の医療物資の不足も問題となってきました。弊社では、以前より非常時に備えN95マスクを社員と家族分支給し、社内にも備蓄しておりました。都会に比べて医療体制が脆弱ないわき市で感染拡大が続き医療崩壊が起これば、救える命も救えなくなってしまい多くの市民の方が犠牲になってしまうという強い危機感がありました。少しでも医療機関のお役に立てればと3月26日に社内に備蓄していたN95マスク3,000枚をいわき市医師会に寄贈し、その後、従業員から自分達も何か協力をしたいので会社から支給されたN95マスクを是非とも医療従事者の方に使用して頂きたいとの打診があり、4月30日にN95マスク等を5,800枚（いわき医師会：3,997枚、いわき歯科医師会：1,839枚）ほど追加で寄贈することができました。

3月下旬、少しずつ中国からマスクが輸出されはじめましたが、マスクの安全規格（PFEやVFE）が表示されておらず感染予防として性能が怪しいマスクが市場に出回るようになりました。このような状況を打破すべく信頼性の高い日本のマスクを購入するため、4月8日に複数社のマスクメーカーの社長様宛にいわき市の現状、そして、無理を承知でマスクを購入させて頂きたいという想いをお手紙でお伝えしました。10日の早い段階で県民・市民の方の力になりたいのでぜひ協力させて頂きたいと温かいお言葉とご賛同を頂き、その日のうちにマスク50万枚の供給のお返事を頂くことができました。この会社こそいわき市にグループ会社がある大王製紙様です。代表取締役社長である佐光正義様のご英断により、大王製紙様全体で迅速にご対応頂けることとなりました。

このような取り組みを行う中で、“共にふるさとの未来を担う皆様に支援したい”という弊社の想いに共感し、協力を申し出て下さった会社が4社ございました。4社のお力添えもあり追加でマスク16.2万枚を手配する事ができ、今回のマスク66.2万枚の寄贈を実現することができる運びとなりました。今回、寄贈させていただくマスクは新型コロナウイルス感染予防としてご使用いただけるよう、安全基準を満たしているものをご準備致しましたので、安心して出産を迎えるための一助として、是非、ご活用いただければと存じます。

すでにいわき市内でも手作りのマスクを製作し幼稚園等に寄贈されている方が多くおり、その非常に心温まる行為に敬意を表しております。しかし今回の寄贈をきっかけに改めて1人1人が自分のできることを考える契機となり、少しでもこのような支援の輪が広がり、全ての住民がみんなのために動ける世の中になることを願うとともに、1日も早い新型コロナウイルスの収束をお祈り申し上げます。